

## 令和8年度 静岡市立静岡看護専門学校 学校関係者評価会議

日時：令和8年 4月 22日（水）

15時30分～16時45分

会場：静岡市立静岡看護専門学校 1階会議室

- 1 副校長挨拶及び趣旨説明（副校長）
  - ・学校関係者評価の進め方説明
  
- 2 委員及び事務局紹介（事務長）
  
- 3 委員長の選出（事務長）
  
- 4 副委員長の指名（委員長）
  
- 5 議題
  - ・自己点検・自己評価結果について
  
  - ・学校関係者評価について
  
- 6 学校関係者評価の公表について（事務長）
  
- 7 その他
  - 今後の予定について（副校長）

# 自己点検・自己評価 報告書

平成 15 年 7 月 25 日 看護師等養成所の教育活動等に関する自己評価指針作成検討会 報告書

「看護師等養成所の自己点検・自己評価指針」準拠

2026(令和 8)年 4 月 1 日 現在

静岡市立静岡看護専門学校

2026(令和 8)年 3 月 31 日 作成

# I 教育理念・教育目的

3:当てはまる 2:やや当てはまる 1:当てはまらない

点 検 項 目		点 検	評 価 内 容
1	1 教育理念・教育目的は、自養成所の教育上の特徴を示している。	③ 2 1	設置目的は、静岡市内の看護職者の質の向上と充足である。ナイチンゲールの看護理論を軸に置き、看護実践者を養成するという本校の特徴を明示している。関連する法律を遵守し、指定規則改訂の趣旨を踏まえたうえで、地域包括ケアシステムの更なる推進を図る人材の養成となるよう、教育理念・教育目的を明示している。
	2 教育理念・教育目的は法との整合性がある。	③ 2 1	
2	1 教育理念・教育目的は、学生にとって学習の指針になるように具体的に示している。	③ 2 1	教育理念・教育目的は、「学校便覧」「実習要綱」に示し、年度当初の履修ガイダンスで学生と共有している。教育理念・教育目的・教育目標に沿った履修について、年度末の学生アンケートでは、85.7%の学生が当てはまると回答している。やや当てはまると回答した学生を含めると98%の学生が回答していた。本校ホームページでも公開しているため、入学希望者にも明示している。
	2 教育理念・教育目的は実際に学生の学習の指針になっている。	③ 2 1	
3	1 教育理念・教育目的は養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育内容を設定しているかを述べている。	③ 2 1	教育課程を構成する主要概念を明文化し、看護の概念、看護専門職、看護基礎教育をどのように捉えているか述べている。カリキュラムポリシーを示すことで、どのような人材をどのような教育方法で養成するか、その方針を明確に示している。
	2 教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育方法をとるのかを述べている。	③ 2 1	
	3 教育理念・教育目的は養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育環境をとるのか述べている。	③ 2 1	
4	1 教育理念・教育目的は、看護、看護学教育、学生観について明示している。	③ 2 1	看護、看護学教育について、教育課程を構成する主要概念を明示している。学生観は、入学後の学生の様子から柔軟に捉えなおしをする必要がある。多様化(生活過程, 学習環境, 学習習慣, 学習意欲, 学力等)する学生の状況を職員間で共有し、教育活動の方向性の検討につなげている。
	2 看護、看護学教育、学生観は実際に教師の教育活動の指針となっている。	③ 2 1	
5	1 教育理念・教育目的は、養成する看護師等が卒業時点において持つべき資質を明示している。	③ 2 1	卒業時点で持つべき資質について、ディプロマポリシーで明示している。看護職に対する社会の期待は刻々と変化することをふまえ、卒業時の看護師像の見直しは常に必要である。「教育課程編成会議」による外部委員からの示唆や、「臨床と学校の連携を考える会」の定期開催による、医療現場との連携により、臨床と学校の乖離が生じないよう、理念・目的・目標の見直しを行っている。
	2 卒業時点に持つべき資質は、社会に対する看護の質を保障するのに妥当なものとなっている。	③ 2 1	
* 改善点 ・ 入学生の特徴を踏まえた学生観とカリキュラムポリシーの整合性		* 改善へ向けての検討 ・ 入学生の特徴をふまえ、本校が示すカリキュラムポリシーが効果的な教育に繋がるものになっているか	* 具体的計画案 ・ 学生の多様性を活かした教育活動になっているか継続的に点検していく。 ・ 学校が考える卒業時に持つべき資質と、看護職に対する社会のニーズの乖離が生じていないか、新入職者の状況等、医療現場の情報収集を行う。

## II 教育目標

3:当てはまる 2:やや当てはまる 1:当てはまらない

点 検 項 目		点 検	評 価 内 容
1	教育目標は、教育理念・教育目的と一貫性がある。	③ 2 1	本校ではディプロマポリシーを教育目標に置き換え明示している。年度当初の履修ガイダンスで、卒業時の目指す姿として学生に説明し、共有を図っている。
2	1 教育目標は、設定した教育内容を網羅している。	③ 2 1	本校のディプロマポリシーは、人に対する深い理解、専門職としての倫理観、専門的思考に基づく実践力、他者理解を発展させた連携・協働、看護の探求と自己成長の5つの視点で設定している。学年ごとの到達目標の明示により、卒業時の姿にどのようにつながるか、学生にもイメージしやすい表現になっている。
	2 教育目標は、最上位の目標として、教育活動のゴールが読みとれるものとなっている。	③ 2 1	
3	1 教育目標は、目標内容と到達レベルが対応している。	③ 2 1	看護基礎教育と継続教育との一貫性を保証するためには、看護基礎教育終了時に獲得していなければならない能力を明確に示す必要がある。「ディプロマポリシー」を教育目標に相当するものとして明示している。
	2 教育目標は、具体的で実現可能なものとなっている。	③ 2 1	
4	看護実践者としての能力を育成する側面と、学習者としての成長を促すための側面から教育目標を設定している。	③ 2 1	卒業時の目標(最上位の目標)に向かうために、3年間で段階的な目標が持てるよう、学年別到達目標を設定している。「ディプロマポリシー」「学年別到達目標」は、授業構築の過程で、学習目標の設定や教育内容の精選の際、意識されている。また教育評価の指標にもなっている。
5	卒業後の継続教育の考え方を示した上で、教育目標を設定している。	③ 2 1	明示された3つの方針をもとに、学生が卒業時の到達目標を意識しながら学習できるように支援している。
* 改善点 ディプロマポリシーや年次別到達目標と、各科目の関係性の曖昧さ		* 改善へ向けての検討 学生が、日々の学習とディプロマポリシーのつながりを意識できるような手段の検討	
		* 具体的計画案 ・カリキュラム評価を行いながら、学習内容と到達目標の整合性の点検を継続して行う。 学生の学習意欲を高め、目指す姿を意識した学習に取り組めるよう、カリキュラムマップなど、イメージ化できるものなどの検討を行っていく。	

### Ⅲ 教育課程経営(1)

3:当てはまる 2:やや当てはまる 1:当てはまらない

#### < 教育課程経営者の活動 >

点 検 項 目		点 検	評 価 内 容
1	1 教育課程編成者と教職員全体は、教育課程と授業実践、教育評価との関連性を明確に理解している。	③ 2 1	教職員は教授・学習・評価課程(授業)において、授業評価を実施し、教務会議においては、全員でカリキュラム評価を実施している。令和7年度で、新カリキュラムが4年経過した。教育理念・教育目標、ディプロマポリシーを意識しながら評価し、新たな課題を見出している。 また、教育課程編成会議を年2回行い、外部委員に意見をいただき、教育の方向性について一致させている。
	2 教育課程編成者と教職員全体は、教育理念・教育目的の達成に向けて一貫した活動を行っている。	③ 2 1	
* 改善点 なし		* 改善へ向けての検討 なし	* 具体的計画案 なし

#### < 教育課程編成の考え方とその具体的な構成 >

点 検 項 目		点 検	評 価 内 容
1	1 看護学の内容について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。	③ 2 1	ナイチンゲール看護論を基盤に、人の見方や健康の見方、病気のみつめ方など看護に必要な力が身につくよう教育課程を編成している。また、年次別到達目標を意識し、看護実践力が身につくよう科目間の順序性を考え編成している。 新カリキュラムとなって4年が経過した。学生の卒業時の姿をディプロマポリシーに到達させることができるよう、カリキュラムの一部を変更した。カリキュラムの評価や変更内容については、教育課程編成会議において外部委員に意見をいただき、確認している。
	2 学修の到達について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。	③ 2 1	
	3 学生の成長について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。	③ 2 1	
* 改善点 なし		* 改善へ向けての検討 なし	* 具体的計画案 なし

### Ⅲ 教育課程経営(2)

3:当てはまる 2:やや当てはまる 1:当てはまらない

#### < 科目, 単元構成 >

点 検 項 目		点 検	評 価 内 容
1	1 明確な考え方と根拠をもって科目を構成している。	③ 2 1	改正カリキュラムを構築するにあたり、教育理念、教育目的、教育目標、ディプロマポリシーを明確にした。その考えにそって、カリキュラムを構築している。 特に、ナイチンゲール看護論を基盤とした科目や単元の構成は、本校の特徴をあらわしている。また、地域・在宅看護論の科目構成は、本校が位置する駿河共生地区や静岡市の地域特性を活かした科目構成になっており、学校の独自性があらわれている。 科目の構成と単位数、時間について、教育目的の達成に向けて、学習内容が妥当かどうか検討し、4科目について内容の精選、授業方略の検討を行い変更した。
	2 明確な考え方と根拠をもって単元を構成している。	③ 2 1	
	3 科目と単元の構成の考え方は教育理念・目的、教育目標と整合性がある。	③ 2 1	
2	1 構成した科目は看護師等を養成するのに妥当である。	③ 2 1	
	2 構成した科目は養成所の特徴をあらわしている。	③ 2 1	
* 改善点 なし		* 改善へ向けての検討 なし	* 具体的計画案 なし

#### < 教育計画 >

点 検 項 目		点 検	評 価 内 容
1	1 単位履修の方法とその制約について教師・学生の双方がわかるように明示している。	③ 2 1	改正カリキュラムは、3年間、3045時間106単位で構成されている。 各科目は、履修の配列、順序性を重要視して計画されている。その内容を、講義要綱で示し、履修ガイダンスで説明している。学生は、年度の教育計画を理解し、各自履修登録を行っている。 変更した令和8年度入学生からのカリキュラムは、3年間での履修が、107単位3045時間である。この内容は、学校便覧に明示する。
	2 単位履修の方法は学生の単位履修を支援するものとなっている。	③ 2 1	
2	単位履修制の考え方を踏まえつつ、看護師等になるための学修の質を維持できるように、科目の配列をしている。	③ 2 1	
* 改善点 なし		* 改善へ向けての検討 なし	* 具体的計画案 学生へのガイダンスでの周知 教員間での、単位数、時間数の変更の意図の共有

### Ⅲ 教育課程経営(3)

3:当てはまる 2:やや当てはまる 1:当てはまらない

#### < 教育課程評価の体系 >

点 検 項 目		点 検	評 価 内 容
1	1 単位認定の基準は看護師等に必要な学修を認めるものとして妥当である。	③ 2 1	本校が設定している全科目について、評価時期、評価基準等明確に設定されている。また、評価等について学校便覧に、静岡市立静岡看護専門学校成績評定及び欠席等に関する内規、履修方法に示している。
	2 単位認定の方法は看護師等に必要な学修を認めるものとして妥当である。	③ 2 1	
2	他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えている。	③ 2 1	大学等の高等教育機関における履修単位の互換が認められる規程がある。R7年度は1名の学生が申請している。
3	1 教育課程を評価する体系を整えている。	③ 2 1	臨地実習が終了した時、及び講義・演習科目は年度末にカリキュラム評価を行っている。教育課程編成会議を年間2回、学校関係者評議会を年間1回計画通り開催した。
	2 評価結果の活用における倫理規定を明確にしている。	③ 2 1	
* 改善点 なし		* 改善へ向けての検討 なし	* 具体的計画案 倫理指針のホームページへの掲載

#### < 教員の教育・研究活動の充実 >

点 検 項 目		点 検	評 価 内 容
1	1 教員が専門性を発揮できるように、教員の担当科目と時間数を配分している。	③ 2 1	年度当初に、教員の力量に合わせ、専門性が発揮できるよう担当科目と時間数を配分している。令和7年度は、教員1名が看護教員養成講習会を受講したため、配分には若干の調整が必要だった。教員の学校と臨地実習場との移動に伴う、時間的なロスについては、実習期間以外に会議等を設定することや、zoomを活用した参加により、時間的ロスの削減につながった。教員それぞれの専門性を高めるために、学会・研修会への参加を実施し、授業構築などへ反映できるようにしている。新カリキュラムでの、学生が体験し考えて学習できるよう工夫した演習のサポートには教員数や準備の時間が必要である。サポート教員数を調整するなどして対応している。学生の時間外学習時間への対応を当番制とし、その他の教員は自らの業務に専念できるようにした。授業評価の一環として、短時間で実施できるリフレクションを取り入れている。互いの担当科目について知り、改善に向けた支援を得る場となっている。R7年度から、新たな施設での実習が開始となった。施設との調整のほか、学生の実習状況に合わせた実習指導者との調整を繰り返し、実習を展開した。教員間での指導体制の調整のためにzoomを活用し、タイムリーな指導につなげている。
	2 教員が授業準備のための時間がとれる体制を整えている。	3 ② 1	
2	1 教育課程の実践者である教員が自ら成長できるよう、自己研鑽のシステムを整えている。	③ 2 1	年度当初に、教員の力量に合わせ、専門性が発揮できるよう担当科目と時間数を配分している。令和7年度は、教員1名が看護教員養成講習会を受講したため、配分には若干の調整が必要だった。教員の学校と臨地実習場との移動に伴う、時間的なロスについては、実習期間以外に会議等を設定することや、zoomを活用した参加により、時間的ロスの削減につながった。教員それぞれの専門性を高めるために、学会・研修会への参加を実施し、授業構築などへ反映できるようにしている。新カリキュラムでの、学生が体験し考えて学習できるよう工夫した演習のサポートには教員数や準備の時間が必要である。サポート教員数を調整するなどして対応している。学生の時間外学習時間への対応を当番制とし、その他の教員は自らの業務に専念できるようにした。授業評価の一環として、短時間で実施できるリフレクションを取り入れている。互いの担当科目について知り、改善に向けた支援を得る場となっている。R7年度から、新たな施設での実習が開始となった。施設との調整のほか、学生の実習状況に合わせた実習指導者との調整を繰り返し、実習を展開した。教員間での指導体制の調整のためにzoomを活用し、タイムリーな指導につなげている。
	2 教員が相互に成長できるよう、相互研鑽のシステムを整えている。	③ 2 1	
* 改善点 授業準備のための時間確保		* 改善へ向けての検討 演習方法・会議日程 他細かな業務改善への取り組みによる時間確保の方法を検討する	* 具体的計画案 演習サポートの適正人員数の検討、授業方略・学習内容の精選、会議日程・参加方法の調整、実習指導者との連携による支援協力依頼を進める

### Ⅲ 教育課程経営(4)

3:当てはまる 2:やや当てはまる 1:当てはまらない

#### < 学生の看護実践体験の保障 >

点 検 項 目		点 検	評 価 内 容
1	1 臨地実習施設は、養成所の個別の教育理念・教育目的、教育目標を理解している。	③ 2 1	各実習、事前打合せを行ったことで、本校の教育理念、目的、目標をもとに支援体制を整えていただいている。今年度から新規施設が5施設加わったことから事前に教員実務研修をおこなうと共に施設側が実習目的・実習目標を理解しながら具体的に実習のイメージができるよう丁寧に説明した。実習後の学生からの評価アンケート結果は、学習環境について、人物・場所すべての項目において概ね4コマ以上であった今後も、学生の声を聞きながら、施設側とも実習環境を整えていただけるよう調整していく。
	2 臨地実習施設は、学生の看護実践の学習を支援する体制を整えている。	③ 2 1	
2	1 臨地実習指導における学生の学びを保障するために、臨地実習指導者の役割を明確にしている。	③ 2 1	実習施設数は、40施設(重複あり)である。教育担当者や臨床指導者との連絡会議などで実習指導者の役割を確認している。昨年度実習指導要項を作成し、指導者会議での説明に活用した。実習中は教員・指導者間で情報交換や確認を行い、協力体制を整えている。主たる実習病院の実習指導者会議ではグループワークを行い、実習中の学生とのかかわりについてテーマを決めて意見交換をしている。 今年度から実習施設が数か所にわかれる実習は、教員間の連携を強化する目的で、教員不在時のサポート体制を整えるとともに、Zoom会議を開催し、情報共有を図り学生指導につなげた。新規実習施設の指導者から学生指導について相談があったが、タイムリーに対応することができない部分もあった。学生のレディネスや指導方法について、常に指導者と連携をはかり、互いの役割を明確にしながら学生の状況把握をしていく必要がある。
	2 臨地実習指導における学生の学びを保障するために、教員の役割を明確にしている。	③ 2 1	
	3 臨地実習指導者と教員の協働体制を整えている。	③ 2 1	
3	1 学生からケアを受ける対象者の権利を尊重するための考え方を明示している。	③ 2 1	学生は実習毎に個人情報の保護に関する誓約書にサインし、受けもち患者と同意書を交わしている。各実習のオリエンテーションでも、個人情報の取り扱いと保護が正しくできるよう指導している。今年度もSNSの活用に関するセミナーを開催した。学生は電子書籍を実習場に持参して学習することがある。さらに、現代の若者特性としてSNSは切り離すことができない。そのため、ソーシャルメディアガイドラインを活用し、個人情報の漏洩につながることはないよう、医療者になる者として、常に高い倫理観をもてるようにしていく。
	2 対象者の権利を尊重する考え方に基づいて、学生への指導を計画的に行っている。	③ 2 1	
4	1 臨地実習において学生が関係する事故を把握、分析している。	③ 2 1	今年度、臨地実習におけるインシデントの発生は12件(昨年度9件)だった。インシデントの種類の内訳は、「記録物の不適切な取扱い」6件(R6; 1件)(複合事案あり)、「個人情報の漏洩のおそれ」6件(複合事案あり)(R64件)、「学生単独での実施」1件、その他3件(複合事案あり)だった。インシデントが発生した際は、実習施設および教員間で迅速に事象を共有し、学生への指導もタイムリーに行った。起こった事象を学生全体でも共有し、何が問題なのか、どのように行動したらよいのかを考える機会とした。担当教員が状況と対応、原因・問題点を抽出し、指導の強化を報告書にまとめている。 「記録物の不適切な取扱い」および「個人情報の漏洩のおそれ」は昨年度よりも増加傾向にあることを受け、個人情報漏洩チェック表を見直し、1年生の基礎実習Ⅱでは学生が実習の中間評価でも確認することとした。1年生はインシデント0件であった。意識を高めるために次年度からはすべての実習において実施していく。
	2 学生に対する安全教育、安全対策を計画的に行っている。	③ 2 1	
* 改善点 ・実習施設および教員間の連携強化 ・高い倫理観がもてる学生の育成		* 改善へ向けての検討 ・実習指導者と教員間の連携方法 ・学生の個人情報漏洩防止の意識強化	* 具体的計画案 ・実習指導要綱の加筆・修正 ・実習中の実習指導者と指導方法・内容の確認 ・個人情報保護についてガイドラインの周知 (履修ガイダンス・実習前など定期的なインプット) ・<個人情報と記録物の管理に関するチェック表>の効果的な活用

#### IV 教授・学習・評価過程(1)

3:当てはまる 2:やや当てはまる 1:当てはまらない

##### < 授業内容と教育課程との一貫性・看護学としての妥当性・授業内容間の関係性 >

点 検 項 目		点 検	評 価 内 容
1	授業の内容は、教育課程との関係において、当該学生のための授業内容として設定されている。	③ 2 1	<p>昨年度のカリキュラム評価などから修正して実施している。科目間の関連性や学ぶ順序性を考慮し、教育内容がより筋の通ったものとなっている。専任教員間のみならず、関連科目となる専門分野・専門基礎分野の講師と学習内容や方略を把握するように対話し、学びの順序性を考え授業を配置している。</p> <p>今年度は全教員が担当授業の授業後に授業リフレクションを行った。さらに年度末にカリキュラム評価をおこなうことで、ディプロマポリシーと学習内容の関連性、授業内容の整理・科目間のつながりを点検している。</p> <p>看護師国家試験終了後、問題の分析を教員全員で行い、学習内容の不足がないか確認、教授内容の修正を図っている。</p>
2	1 授業内容のまとまりの考え方を明確に述べている。	③ 2 1	
	2 授業内容のまとまりの考え方は、科目目標との整合性をもっている。	③ 2 1	
3	授業内容のまとまりは、看護学の教育内容として妥当性がある。	③ 2 1	
4	授業内容間の重複や整合性、発展性等が明確になっている。	③ 2 1	
* 改善点 なし		* 改善へ向けての検討 なし	* 具体的計画案 なし

##### < 授業の展開過程 >

点 検 項 目		点 検	評 価 内 容
1	授業形態(講義、演習、実験、実習)は、授業内容に応じて選択している。	③ 2 1	<p>講義資料は図や写真、カラーのものが多くなっているため、今年度から講師の許諾を得て授業資料の配信をさらに推進させている。学生には、授業資料の取り扱いについて著作権法にも触れながら説明し、年度初めに誓約書にサインをしている。講義資料だけでなく、学生の作成物の共有も配信を活用し、進級後も活用しやすいようにしている。また、レポート作成方法、生成AIの使用方法についてアンケートを実施した。学生のデバイスに即した書式の提示、生成AIリテラシー教育が課題である。</p> <p>授業や実習において、異学年での学び合いの形態を実施している。先輩から後輩に自己の今までの学びや考えを伝えることで、新たな気づきや自己を俯瞰する機会にもなっている。後輩の新たな発想や後輩の変化から自己の学びを振り返る機会にもなっている。</p> <p>基礎分野・専門基礎分野・専門分野など科目や分野にかかわらず、教授内容のつながりを意識して授業展開をおこなっている。</p> <p>時間割に過密な期間がある一方、余裕のある期間もあり偏りがあった。特に1年生は10月に空きコマが少なく、自己学習や技術練習、ワークを行う時間のゆとりがなかった。来年度から比較的余裕のある9月に授業を開講するなどの調整を行い、学習や課題に取り組める時間を確保している。</p> <p>学内教員が行っている演習科目等は、複数の教員が必要時サポートする体制を整えている。担当教員から授業計画が明示され、サポート教員はそれを理解し指導を行っている。また、主に演習では学習環境に応じて、少人数制の演習も取り入れている。</p> <p>また、2、3年生は臨床判断能力を養うよう授業でハイブリットシミュレーター(SCENARIO、フィジコ)を使用したシミュレーションを取り入れている。しかし、ハイブリットシミュレーターの授業時間外での使用機会は横ばいである。学生がシミュレーターの特性についての情報を持っていないのも理由の一つでもある。各シミュレーターの特性を提示し、学生がシミュレーターを使って練習できることの周知を強化していく。</p>
2	授業展開に用いる指導技術についての考え方を授業計画等に明示し、実践している。	③ 2 1	
3	授業の展開過程の他に、学生の学習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援している。	③ 2 1	
4	学生に対し効果的な教育・指導を行うために、教員間の協力体制を明確にしている。	③ 2 1	
* 改善点 ICTのさらなる活用  シミュレーターの活用  多重課題による学生の負担感を軽減する		* 改善へ向けての検討 ・配信された資料や作成物の活用方法、取り扱いの状況把握 ・自校の「レポートの書き方」の刷新 ・AIリテラシーの周知方法 ・学生へシミュレーターの活用方法の周知  ・学生の課題の取り組み、技術練習の状況把握	* 具体的計画案 ・ICTの活用法の情報収集 ・「レポートの書き方」を学生が使用するソフトやアプリに応じた内容に変更・周知する ・レポート・論文等の作成における生成AIの使用について学生に周知する  ・実習室内にシミュレーターの特性や活用方法を掲示する  ・過密時期の時間割の調整と評価

#### IV 教授・学習・評価過程(2)

3:当てはまる 2:やや当てはまる 1:当てはまらない

##### < 目標達成の評価とフィードバック >

点 検 項 目		点 検	評 価 内 容
1	1 評価計画を立案し、実施している。	③ 2 1	<p>開講時には、評価方法・評価基準を明示している。提出物やアクションシートなどを用いて教員は学生の状況を把握しながら、補足説明などを行っている。</p> <p>評価は、筆記試験のみならず、パフォーマンス評価・レポートなど様々な方法を取り入れている。本試不合格者の学生に対しては、個別に学習支援をおこなっている。プロジェクト学習やパフォーマンス課題では形成的評価をおこないながら進めている。また、グループ活動においては学生間の他者評価も取り入れている。課題の特性によっては個別に評価を返却し、学生が自己の課題を理解して学習に活かせるようにしている。</p> <p>授業評価アンケートの結果も踏まえて、年度末にカリキュラム評価をおこない、各科目・領域において授業の妥当性および改善点を見出している。アンケートの回答率を向上させるために、科目の最終回にデバイスにアクセスする時間を設けることにした。学年が上がるにつれて回収率は下がるが、昨年度に比べて回答率が上昇している。(平均回収率 1年生86%、2年生79%、3年生78%)</p> <p>実習評価は、すべてルーブリックを用いている。実習評価は臨床実習指導者と協議することで客観性を担保している。ルーブリックが学生に理解できる表現になっているかカリキュラム評価等で見直し、変更をしている。今年度、実習評価の点数化を検討した。実習評価の意義、点数化のメリット、デメリットを検討するところまでで終えている。学年や領域によって実習目標は変わるため、評価の意義に立ち返りながら実習目標と評価の一体化を目指し検討を継続する。</p> <p>成績証明書にGPAの本校における総合評価表、活用について同封し、学生や父母等が共に成績の相対的な位置づけを把握できるようにしている。履修ガイダンスや面談の際に、前年度のGPAをもう一度確認しながら学習支援を行っている。</p>
	2 評価結果に基づいて、実際に授業を改善している。	③ 2 1	
2	1 学生および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れている。	③ 2 1	
	2 教育目標の達成状況を多面的に把握している。	③ 2 1	
3	1 学生に単位認定のための評価基準と方法を公表している。	③ 2 1	
	2 単位認定の評価には公平性が保たれている。	③ 2 1	
* 改善点 ・実習評価表(ルーブリック)を見直しを継続する ・授業評価アンケートの回答率の向上		* 改善へ向けての検討 ・実習のルーブリックの評価基準、点数化の検討 ・授業評価アンケートの回答時間の確保とタイミングを逃さないための教務事務との連携	* 具体的計画案 ・新教育課程開発において、実習のルーブリックを実習目標と評価観点の妥当性、点数化について各領域で検討後、教員全体で共有する。 ・授業評価アンケートの回収率を教員に周知し、働きかけのタイミングや教務事務との連携方法を周知する。

##### < 学習への動機づけと支援 >

点 検 項 目		点 検	評 価 内 容
1	1 シラバスの提示や学習への指導は、養成所全体としての一貫性がある。	③ 2 1	<p>講義要綱にて教育理念・教育目的に基づく学習目標やねらい、内容使用テキストや参考テキストなどを提示している。R7年度から、講義要綱はデータで発信している。学生のデバイスに確実にダウンロードされるようにガイダンスで周知していく。授業のシラバスを容易に参照できるようにR8年度から領域別に提示した。</p> <p>また講義予定表にて、授業・演習予定や、場所、持ち物等を提示している。課題や技術練習を各自が予定を立てながら取り組めるように、課題の予定や見通しを提示している。実習では実習要項以外にオリエンテーションをおこない、興味・関心を高め、学習への動機づけを行っている。</p> <p>授業評価アンケートより、「授業の学習目標や学習内容は明確であった」の項目は平均4.72、「意欲的に取り組んだ」の項目は平均4.78であった。実習評価アンケートより、「実習オリエンテーションは効果的であったか」の項目は平均4.77、「積極的に取り組んだ」の項目は4.86であった。アンケートから、現在の提示や支援は学習への動機づけとなっていると考える。今後も学生のレディネスを捉えながら効果的な支援をしていく。</p>
	2 シラバスの提示や学習への指導は、学生の学習への動機づけと支援になっている。	③ 2 1	
* 改善点 なし		* 改善へ向けての検討 なし	* 具体的計画案 なし

## V 経営・管理過程 (1)

3: 当てはまる 2: やや当てはまる 1: 当てはまらない

### < 設置者の意思・指針 >

点 検 項 目		点 検	評 価 内 容
1	1 養成所の管理者は教育理念・教育目的についての考え方を明示している。	③ 2 1	<p>本校は静岡県保健福祉長寿局一保健衛生医療部に組織されており、地域医療に貢献する看護師養成を目的とする学校である。地域医療に貢献するという点では、本校は設立の歴史的経緯及び立地から、静岡病院を始めとする市内の公的病院に人材を多く輩出し続けている。</p> <p>年度当初、本校の使命と事業目的を確認し、運営方針を明示し、年度の重点課題を教職員全体で一致させている。</p> <p>また、学校運営に関する評価活動は、「看護師養成所の自己点検・自己評価指針」に準拠した視点で実施している。自己点検・自己評価委員会を中心に活動し、その目的は静岡市立静岡看護専門学校自己点検・自己評価委員会要綱にて明示している。付属機関として外部委員で構成する学校関係者評価委員会を設置している。</p> <p>養成所設置者である静岡市に対しては、年度当初の組織重点目標の説明、主要事業概要説明、入学者選抜委員会、看護専門学校あり方検討会などの機会を通して、管理者としての考え方を示し、理解を得ている。</p>
	2 養成所の管理者は教育課程経営についての考え方を明示している。	③ 2 1	
	3 養成所の管理者は教育評価についての考え方を明示している。	③ 2 1	
	4 養成所の管理者は養成所の管理運営等についての考え方を明示している。	③ 2 1	
	5 明示した管理者の考えと、設置者の意思とは一貫性がある。	③ 2 1	
	6 教職員は養成所の設置者と管理者の考え方を理解している。	③ 2 1	
* 改善点	* 改善へ向けての検討	* 具体的計画案 組織重点目標の共有 主要事業概要説明、目標設定時面談等における、設置者、管理者、教職員の認識の一致	

## V 経営・管理過程 (2)

3:当てはまる 2:やや当てはまる 1:当てはまらない

### < 組織体制 >

点 検 項 目		点 検	評 価 内 容
1	1 養成所の組織体制は、教育理念・目的を達成するための権限や役割機能が明確になっている。	③ 2 1	静岡市保健福祉長寿局、保健衛生医療部に属する学校として、組織体制は確立している。学校長は独法化した静岡病院の院長と兼務である。経営、管理に関して権限が委譲され、意思決定システムや相互の役割分担等、円滑に機能している。看護師養成機関としての使命、学校長の方針等において決定されたこと等は、速やかに周知させている。
	2 意思決定システムが明確になっている。	③ 2 1	年度当初、組織目標と職務分掌を明記した文書を提示している。教職員それぞれの意思や考えは、職員会議、教務会議等で反映され、決定事項が周知できるように整っている。また、組織目標達成に向け、定期的な人事評価面接を行い、管理者と職員で状況の共有、意思の反映が図れる機会を設けている。
	3 意思決定システムは、組織構成員の意思を反映できるように整えられている。	③ 2 1	看護師養成に最も適切と思われる教職員の組織であるために、必要かつ十分な教職員の確保が必要である。人員数においては退職者、異動希望者の補充は年度ごとに行われ定数を満たし運営している。
	4 意思決定システムは、決定事項が周知できるように整えられている。	③ 2 1	今後、教員の定年退職が続くことを見越し、複数年の人員管理計画に基づき教員の採用、研修会の受講を行っている。令和7年度の新規採用者も、静岡県専任養成講習会を受講し、全員専任教員養成講習会受講者での教育体制を維持している。このことは教育の質の担保につながっている。また、1名が教務主任養成講習会を受講しており、管理者育成にも取り組んでいる。
2	1 組織の構成と教職員の任用の考え方と、教育理念・教育目的達成との整合性がある。	③ 2 1	教員はキャリア別に設定した目標達成に向け、年度毎のビジョンとゴールを設定し、教育活動に取り組んでいる。
	2 教職員の資質の向上についての考え方と対策には教育理念・教育目的達成との整合性がある。	③ 2 1	
* 改善点 教務組織の安定した教育力の維持 看護師のマネジメント力の向上		* 改善へ向けての検討 ・看護師の定数13名を維持できるようにする。 ・中堅期職員が受講する研修内容の検討	* 具体的計画案 人事評価面接における次年度の異動希望の把握 退職予定者補充に向けた、看護教員の採用業務の実施 中堅期教員を対象にした、マネジメント力向上に向けた研修の受講 看護教員インターンシップの受け入れ

## V 経営・管理過程 (3)

3:当てはまる 2:やや当てはまる 1:当てはまらない

### < 財政基盤 >

点 検 項 目		点 検	評 価 内 容
1	1 財政基盤を確保することについての考え方が明確である。	③ 2 1	教職員は、学校運営が市の財政基盤により成り立っていることについて理解することが必要であるため、職員会議を通し、本市の予算編成の考え方や予算執行状況等の情報を定期的に事務職員と共有を行い、効率的な予算執行の理解を深めた。 また、厳しい財政基盤の中で、教務の立場からの意見、要望を具体的に予算等に反映できるよう、事務職員と連携を取りながら教職員自ら資料作成や情報収集を行った。
	2 財政基盤を確保することについての考え方は、学習・教育の質の維持・向上につながっている。	③ 2 1	
2	1 教職員は、養成所がどのような財政基盤によって成り立っているかを理解している。	③ 2 1	令和7年度の予算執行及び、令和8年度当初予算編成では、維持管理経費のみならず、教員の質向上のための研修に係る経費や教育環境をより充実させるための備品購入経費等、必要額を確保した。
	2 教職員のそれぞれの観点からの財政についての意見は、経営・管理過程に反映できるようになっている。	③ 2 1	
* 改善点 なし		* 改善へ向けての検討 なし	* 具体的計画案 今後も、市の財政状況や方針等を職員間で共有するとともに、予算作成過程での教職員の参画を促進し、学習・教育の質の維持・向上につなげていく。

### < 施設設備の整備 >

点 検 項 目		点 検	評 価 内 容
1	1 学習・教育環境の整備について、管理者の考え方を明示している。	③ 2 1	・施設の長寿命化を図るため、令和7年度にエレベーター改修を実施した。 また、外壁改修及び屋上防水工事が総合計画に認められ、令和8年度に実施できるよう予算確保することができた。 ・照明器具の計画的修繕として、利用頻度の高い2階廊下照明をLEDに改修した。 ・定期点検で指摘のあった変電設備高圧絶縁油交換や自動火災報知設備等を修繕し、学生の安全確保に努めた。 ・その他、小破修繕を随時実施している。 ・令和7年度の備品として腎筋注射モデル、デスクトップパソコン等を購入し、学習環境を整えている。
	2 管理者の考え方に基づいて整備計画を立案し、実施している。	③ 2 1	
2	1 看護の専門教育に必要な施設設備を計画的に整備している。	3 ② 1	
	2 医療・看護の発展や学生層の変化に合わせて、施設設備を整備・改善している。	③ 2 1	
3	1 養成所が設置されている地域環境との関連から学生および教職員にとっての福利厚生施設設備の整備を検討している。	③ 2 1	
	2 学生が学生生活を円滑に送り、教職員が職務を円滑に遂行できるように施設設備を整備している。	③ 2 1	
* 改善点 竣工30年以上を経過し、経年劣化が顕著化している 設備・備品更新等への対応		* 改善へ向けての検討 校内で施設整備の優先順位を検討しながら、順次整備していく。	* 具体的計画案 市の総合計画で令和7年度にエレベーター改修が認められ改修を行った。令和8年度には、外壁改修及び屋上防水工事が認められたため施設改修を行う。今後も施設の長寿命化を図るため、引き続き中規模改修の予算要求を行っていく。

## V 経営・管理過程(4)

3:当てはまる 2:やや当てはまる 1:当てはまらない

### < 学生生活の支援 >

点 検 項 目		点 検	評 価 内 容
1	1 学生が入学後に学修を継続できる支援体制を多角的に整えている。	③ 2 1	奨学金等の経済的支援体制、学校カウンセラーの配置等による健康相談を受ける体制は整っている。また、学生からの相談を常時受けられるようにし、学習環境が整えられるよう教職員で連携をとっている。
1	2 学生が活用しやすいように学生生活の支援体制を整えている。	③ 2 1	キャリアボードの活用や静看カフェで卒業生との交流機会をつくるなど進路選択に関する情報を提供している。 学生の意見を反映できるよう意見箱を設置している。今年度の意見投書は1件であった。その他、授業評価やアンケート調査等、学生が意見を述べる場を随時提供している。
	3 支援体制は、実際に学生に活用され、学修の継続を助けている。	③ 2 1	性の多様性に対する学校の支援体制を整え、ハラスメントの防止、性の多様性への配慮を意識しているが、大きな問題は浮上していない。更衣室の個別スペースの利用はさほど多くないようだ。学生のユニフォームは2つのパターンから選択できるようにした。 合理的配慮を必要とする学生への対応について、具体的ガイドラインを作成した。R8年度から学生へ周知していく。
* 改善点 合理的配慮を必要とする「学生の学ぶ機会の保障」と「教育を受ける権利の行使」のための具体的な支援体制の整備		* 改善へ向けての検討 平等な修学の機会を得られるよう学生・教職員の理解を深め、安心して学習できる環境を具体的に整備していく。	
		* 具体的計画案 ・学生への支援体制の周知 ・合理的配慮を必要とする学生へのガイドラインの運用開始	

### < 養成所に関する情報提供 >

点 検 項 目		点 検	評 価 内 容
1	1 教育・学習活動に関する情報提供を関係者(保護者等)に行っている。	③ 2 1	入学式後に、父母等への教育方針の説明、協力、支援の依頼を行っている。また、入学式後に父母等を対象に校内案内及び説明の機会を設け、理解を深めていただいた。
1	2 関係者(保護者等)への情報提供は関係者から協力・支援を得ることにつながっている。	③ 2 1	学生個々の個別な問題には、教員間の連携を図るとともに、必要に応じて事務担当とも情報を共有し、タイムリーに本人・父母等に対応、支援している。
2	1 看護師等を養成する機関としての存在を、十分にアピールする広報活動を適切に行っている。	③ 2 1	学内行事に合わせ、ホームページを随時更新し、迅速な情報発信を心がけるとともに、報道提供も随時行っている。ホームページは市の統一されたフォーマットの制限はあるが、トップページを独自に作成し、閲覧者が見やすいものになるよう改善している。
	2 広報の内容は、社会的説明責任を果たすものになっている。	③ 2 1	受験者に本校の魅力が分かりやすく伝わるよう学校案内を作成し、配布した。学校案内には本校の卒業生や在校生の写真とコメントを掲載し、より本校の魅力が伝わりやすいようにしている。また、オープンキャンパスでは保護者向けの説明に加え、保護者が在校生へ質問できる機会を設けた。さらに、今年度初めて社会人向け説明会を行い、受験者数の獲得につながった。看学祭では入学希望者と在校生との座談会を設けるなど、多くの方々へ本校の存在をアピールすることができた。
* 改善点 ホームページの情報を常に最新の状態にする		* 改善へ向けての検討 ホームページの情報を複数の目で確認修正する。	
		* 具体的計画案 行事に加え、日常の学校生活についてもホームページに掲載する写真を更新し、本校の「いま」が伝わるように工夫を続ける。また、行事の内容が分かり易く伝わるような写真選び、速やかな情報提供を今後も取り組んでいく	

## V 経営・管理過程 (5)

3:当てはまる 2:やや当てはまる 1:当てはまらない

### < 養成所の運営計画と将来構想 >

点 検 項 目		点 検	評 価 内 容
1	1 養成所は明確な将来構想のもとに、運営の中・長期計画、短期計画、年間計画を立案している。	3 (2) 1	静岡市立看護専門学校として、静岡校・清水校2校を維持させる方向性のもと、看護師養成を継続している。卒業生の86%が静岡市内に就職内定が決定していることから、地域医療に貢献できる人材を多く輩出していると評価できる。少子化問題や、高校生の大学志向の影響は受けつつも、本校の特徴的な教育実践をアピールすることで、静岡県中部地区を中心に学生を確保し、看護師養成としての役割を果たしている。 看護師養成所の将来構想に関する検討会は、本校、清水校、保健衛生医療課の3者による検討を行ってきたが、R7年度は開催していない。地域医療構想など今後の看護師需給状況等を踏まえ、検討を継続する必要がある。
	2 その実施・評価は将来構想との整合性をもっている。	3 (2) 1	
* 改善点		* 改善へ向けての検討 将来構想について清水校、保健衛生医療課との検討	* 具体的計画案 ・静岡市看護専門学校のあり方について、関係部署で引き続き検討会議を実施し、局として方針を決めていく。

### < 自己点検・自己評価体制 >

点 検 項 目		点 検	評 価 内 容
1	1 自己点検・自己評価の意味と目的を理解している。	(3) 2 1	常に改善に向けて自分達のしていることを評価していこうという意識は職員に根付いている。自己点検自己評価委員会も定期的で開催されており、評価結果より改善されている点が多い。 教授活動評価は通年で実施し、教務全体で検討した改善点を、教育活動に反映させている。教育課程編成会議を年2回開催し、外部委員から教育課程について示唆を得、教育活動に反映させている。
	2 実際に自己点検・自己評価を行うための知識と方法を明確にもっている。	(3) 2 1	
2	1 自己点検・自己評価体制を整え、運用している。	(3) 2 1	自己点検自己評価活動の結果は、年報にて公表している。 また、学校関係者評価会議を4月に開催し、外部委員の評価を受けている。結果は学校ホームページにて公表している。 学校教育法の一部改正に伴い、大学と同等の項目での自己点検評価の義務付け、第三者評価の努力義務化と、学校評価ガイドラインが改訂する。合わせて、本校の自己点検・自己評価表の検討が必要となる。
	2 自己点検・自己評価は、養成所のカリキュラム運営、授業実践にフィードバックするように機能している。	(3) 2 1	
	3 自己点検・自己評価体制は、養成所の教育理念・教育目的、教育目標の維持・改善につながるように機能している。	(3) 2 1	
* 改善点 学校評価ガイドラインの改訂に合わせた自己点検・自己評価表の改訂		* 改善へ向けての検討	* 具体的計画案 自己点検・自己評価表の作成

## VI 入 学

3: 当てはまる 2: やや当てはまる 1: 当てはまらない

点 検 項 目		点 検	評 価 内 容
1	1 教育理念・教育目的との一貫性をもって入学者選抜についての考え方を述べている。	③ 2 1	<p>ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに沿った教育を実現するための、アドミッションポリシーを明示している。募集要項・ホームページ・学校説明会等で入学希望者に明示し、入学者選抜の考え方を示している。入学者の選抜については、入試委員会で、受験者の動向、選抜方針、選抜方法を検討し、合格基準に従い、公平性を保ちながら、入学者を決定している。</p> <p>R7年度実施の入試は、推薦・一般入学試験ともに出願者が増加した。一般入試の合格辞退率は、過去最高だった昨年に比べ、41%程度に留まり、定員数確保した。</p> <p>R7年度入学者については、ほぼ順調に履修を進めていた。1名の休学者があったが、次年度復学予定である。その他、学科目で2名位の学生が、単位習得できない科目があった。これらの学生の入学後の成績と、入試時の成績には、明確な関係性はなく、入学者選抜方法の妥当性は保たれていると評価する。1年終了時のGPA平均値は2.9ポイントと高値であった(R6年度生比+0.4)。</p>
	2 入学者状況、入学者の推移について、入学者選抜方法の妥当性及び教育効果の視点から分析し、検証している。	③ 2 1	<p>学習方法の確立、メンタル面の課題は、入学前から継続しているものも多い。高校時代に克服していなかった問題が、再度出現したり、複雑な生活背景が履修を困難にしているケースもあった。入試で見極める限界はあるが、アドミッションポリシーに沿った人物を選抜できるよう、職員の面接スキルを向上させる取り組みは必要である。</p> <p>入学希望者を増やすための手段として、R7年度は学校ホームページの改良に取り組んだ。HPを管理する広報課と協働し表示回数、閲覧時間の分析からより利用者のニーズに応えるHPとなるよう変更した。入学希望者の情報収集手段として、HPは非常に多く利用されているため、今後も改良を重ねていく。</p> <p>R7年度 在籍学生異動状況            1年生 36名 進級33名 原級留置1名 退学2名            2年生 42名 進級39名 原級留置2名 退学1名            3年生 36名 卒業36名</p>
* 改善点 ・ アドミッションポリシーに沿った人材の選抜	* 改善へ向けての検討 ・ 入学後の成績状況、入学者の異動状況の分析結果から、入学試験実施要領、選考基準の妥当性の検討 ・ 入学者選抜時点で、評価観点に基づく適性の見極めができるよう面接スキル向上の検討 ・ 推薦入試、一般入試の受験者数増加につながる募集活動の検討	* 具体的計画案 ・ 受験者数の推移、近隣学校の学生確保状況の情報収集と分析 ・ 面接官のスキル向上に向けた学習会の実施 ・ 学生募集活動の工夫(募集要項の編集、HPの更新)	

## Ⅶ 卒業・就業・進学

3:当てはまる 2:やや当てはまる 1:当てはまらない

点 検 項 目		点 検	評 価 内 容
1	卒業時の到達状況を捉える方法が明確であり、計画的に行っている。	③ 2 1	R7年度の卒業生は36名で、卒業率は、令和4年度生:100%、令和5年度生:85% (R8 3月時点)である。看護師国家試験の合格率は17年連続100%で、卒業時の教育水準は維持できている。国家試験問題を分析し、教授活動と今後の国試対策を検討している。
2	1 卒業時の到達状況を分析している。	③ 2 1	<p>年度末と卒業時にアンケートを実施し、各学年の目標到達度を評価した。また、各学年でポートフォリオの共有会を実施している。学生はお互いの成長を感じている。教員も、成績の評価点だけではわからない、学生個々の成長を確認できた。</p> <p>R7年度(R8年3月)卒業生36名は全員就職内定している。内31名が静岡市内の病院に就職する(86%前年比1%増)。静岡病院への就職者は24名(66.7%)である。</p> <p>卒業生の就業後の状況について就職先から情報収集している。早期離職など就職先とのミスマッチがないよう、本人の意思を確認しながらも、就職先に関する情報収集などについて助言し、効果的に就職活動できるよう支援している。学校で開催する就職に関するセミナー、就職説明会の実施の時期や方法を検討した。1年次から、キャリア形成について考え、自らの目指す看護師像にあった就職先を選択できるよう、業者による説明会の実施や、合同説明会への参加などを勧めた。</p> <p>卒後1年目を対象に実施しているアンケートは、39名に実施し、19名(48.7%前年比-9.2%)の回答があった。Webでの配信に加え、QRコードでの回答を促す紙面の配布、卒業生への直接の依頼を行ったことが、回答率の維持につながったと考える。退職も含む卒後の状況、基礎教育での学習の効果を推察できる。</p> <p>卒業生対象の座談会「静看Café」は、R7年度も8月に開催し、卒業生13名、在校生6名の参加があった。卒後の様子を知る機会になっている。開催日を固定したことで、認知度も高まり、継続して参加する者もいる。在校生への認知度も高まり、卒後に「参加したい」と考える者もいる。助産学科を目指す在校生も参加し、開催意義を高めるものになっている。</p>
	2 卒業生の就業・進学状況を分析している。	③ 2 1	
	3 卒業生の就業・進学状況についての分析結果は、教育理念・教育目標との整合性がある。	③ 2 1	
3	1 卒業生の就業先での評価を把握し、問題を明確にしている。	③ 2 1	<p>卒後1年目を対象に実施しているアンケートは、39名に実施し、19名(48.7%前年比-9.2%)の回答があった。Webでの配信に加え、QRコードでの回答を促す紙面の配布、卒業生への直接の依頼を行ったことが、回答率の維持につながったと考える。退職も含む卒後の状況、基礎教育での学習の効果を推察できる。</p> <p>卒業生対象の座談会「静看Café」は、R7年度も8月に開催し、卒業生13名、在校生6名の参加があった。卒後の様子を知る機会になっている。開催日を固定したことで、認知度も高まり、継続して参加する者もいる。在校生への認知度も高まり、卒後に「参加したい」と考える者もいる。助産学科を目指す在校生も参加し、開催意義を高めるものになっている。</p>
	2 卒業生の就業先との情報交換や調査の実施等ができる体制を整えている。	③ 2 1	
4	1 卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している。	3 ② 1	<p>卒業生対象の座談会「静看Café」は、R7年度も8月に開催し、卒業生13名、在校生6名の参加があった。卒後の様子を知る機会になっている。開催日を固定したことで、認知度も高まり、継続して参加する者もいる。在校生への認知度も高まり、卒後に「参加したい」と考える者もいる。助産学科を目指す在校生も参加し、開催意義を高めるものになっている。</p>
	2 卒業生の活動状況の分析結果を、教育理念・教育目的・教育目標・授業の展開に活用している。	3 ② 1	
* 改善点 ・卒業後の活動状況の把握が十分ではない。(回収率が上昇しているとはいえ、50%を超えていない)		* 改善へ向けての検討 教育課程の評価に卒後の活動状況からの情報も活かすためには、卒後のアンケートの回収率をあげ、卒後の活動状況の把握を行う。2年ほど、Googleclassroom以外の方法も実施しており、就職先の施設宛で文書を送付している。しかし、退職している者もいる。そのほかの方法を検討し実施する。	
		* 具体的計画案 ・退職した者の情報を共有しておき、確実に案内が届く場所へ送付する。 ・卒業生が学校に来る機会を設定し、状況を聴取する。	

Ⅷ 地域社会／国際交流(1)

3:当てはまる 2:やや当てはまる 1:当てはまらない

< 地域社会 >

点 検 項 目		点 検	評 価 内 容
1	1 社会との連携に向けて、地域のニーズを把握している。	③ 2 1	<p>新カリキュラムで強化した、地域・在宅看護論領域の学習では、S型デイサービスなど地域の人々が集う場や様々な施設などに出向くことで、そこで暮らしている人々とふれあう機会が増えた。学生は、生活の実際や健康状態、望む暮らしについて学ぶことができ、地域の特徴やニーズに気づくことにつながっている。</p> <p>また、この学習活動で本校を知った地域の方々が、学校祭に足を運んで下さるケースも増え、地域社会との交流に繋がっている。</p>
	2 看護教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っている。	③ 2 1	
2	1 養成所の教育活動について、地域社会のニーズを把握する手段を持っている。	③ 2 1	<p>演習や実習のための、運営側の担当者と地域・在宅看護論担当者による打ち合わせは、地域でのニーズを把握することにつながっている。</p> <p>南部学区保健福祉推進協議会の40周年記念式典に参加した。行政、福祉、地域住民の関係性の強化が地域づくりにつながっていることが実感できる。また、看護専門学校も地域活動の一部を担っている団体であると認識されており、学校への期待されるものは大きいと考える。</p>
	2 養成所から地域社会へ情報を発信する手段をもっている。	③ 2 1	
3	1 養成所が設置されている地域の特徴を把握している。	③ 2 1	<p>静岡まつりや静岡マラソン、病児をかかえる親の会でのボランティア活動に学生が参加した。そのほか、学生向けのボランティア活動の紹介を受けることがあり、学生への期待が存在する。</p>
	2 地域内における諸資源を養成所の学習・教育活動に取り入れている。	③ 2 1	
* 改善点		* 改善へ向けての検討	<p>* 具体的計画案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看学祭の実施、トロバーWeek2026への参加。</li> <li>・ボランティア活動参加への呼びかけ</li> </ul>

## Ⅷ 地域社会／国際交流(2)

3:当てはまる 2:やや当てはまる 1:当てはまらない

### < 国際交流 >

点 検 項 目		点 検	評 価 内 容
1	国際的視野を広げるための授業科目を設定している。	③ 2 1	国際的な視野の広がりをおねらいにした、カリキュラムの科目は、2科目を設定されている。1年次「地域と暮らしを知る演習Ⅰ・Ⅱ」では、外国人の地域生活に対する視点を持ち学習を進めている。さらに、3年次「災害看護・国際看護」において、自己・他者の価値観について考え、国際的視点を広げられるよう授業を展開している。また、海外で活躍する看護師からの講義も実現できた。学生から、「国際的な視点が広がった」との意見もあったため、効果的な講義を実施できていると考える。
2	国際的視野を広げるための自己学習に適した環境を整えている。	3 ② 1	今年度より「災害看護・国際看護」において、それぞれの科目のつながりを意識した講義を行った。国際的な視点に災害的な視点を追加することで、さらに内容を深めることができていた。授業では、インターネット環境を活用し、関連する動画やデータを使って教授している。さらに正確な情報入手し、視野を広げていくために、図書や視聴覚教材の充実も検討する必要がある。
3	海外からの帰国学生や留学生の受け入れ体制を整えている。	3 ② 1	中国出身の学生は、すべての履修を終え、卒業した。R7年度は、外国の高校を卒業語、日本の大学を卒業した受験希望者からの問い合わせがあった。実際に、受験はしなかったが、外国人留学生などの受け入れに関する個別審査基準は整っているため、看護師を志望し、本校の受験を考えている学生に対しては、今後も進路説明会等で個別相談に応じ、支援できるようにしていく。
4	留学や海外において看護職に就くこと等を希望する学生に対応できる体制を整えている。	③ 2 1	海外留学や海外での活動を希望する学生に対して情報誌等の配架は行っている。R7年度は、在校生や卒業生からの、留学等に関する希望や相談はなかった。希望する場合、書類を作成について対応する準備がある。
* 改善点 ・興味関心をもって自己学習を進めることができるよう、資料・書籍等を充実させる必要がある		* 改善へ向けての検討	* 具体的計画案 看護に限らず、幅広く国際的な観点での学習ができるように、諸外国の生活や文化、経済など、様々な文化を知るための資料、また日本で何に困っているのかなどを知るための教材(書籍)を増加させる

## Ⅸ 研 究

3:当てはまる 2:やや当てはまる 1:当てはまらない

点 検 項 目		点 検	評 価 内 容
1	教員の研究活動を保障(時間的、財政的、環境的)している。	3 (2) 1	今年度は、昨年度の共同研究を看護教育学会において発表を行った。教育学の学習会に参加し、共同研究を行った教員がいる。教員全体が研究活動の意義を認め、研究構想が萌芽段階にある教員もいるが、研究活動までには至っていない。研究活動の時間確保が難しい現状にある。研究活動の時間確保は課題である。
2	教員の研究活動を助言・検討する体制を整えている。	3 (2) 1	また、学会・研修会へは主体的参加により、視野の広がり、専門性の向上につながっている。学会や研究会での事例検討において、多角的な視点からの学びを得ている。これらの参加を通して、研究的姿勢を涵養していきたい。
3	研究に価値をおき、研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地が養成所内にある。	(3) 2 1	
* 改善点 ・ 専任教員が研究活動に取り組める環境の整備	* 改善へ向けての検討 ・ 教員自らが研究的姿勢を涵養していけるよう、学会、研究会、事例検討会等の参加を支援する  ・ 研究的関心と研究的姿勢を高め、研究に取り組める時間の確保、支援を行う。		* 具体的計画案 ・ 研究活動に関心を示している教員に具体的な支援策を提示し、研究活動を行う場合は活動を保障する ・ 学会や研究会への参加を保障し、他の研究者と交流を持つ、研究協力に関する依頼を教員に提示し研究活動に触れる機会を増やす ・ 研究時間を勤務時間として保障する